

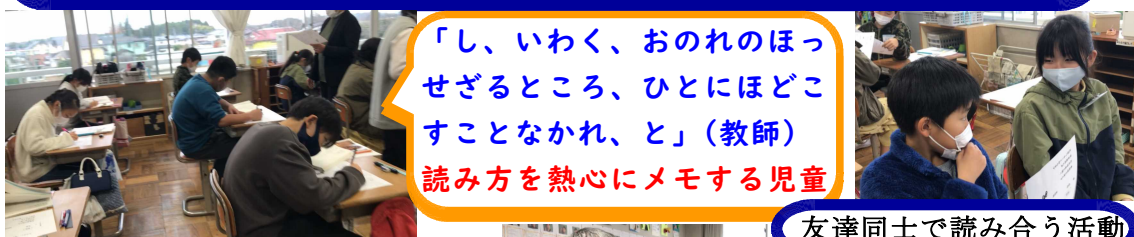
11月29日(木) 第1回薄葉小乗り入れ授業(国語) 14:05～

5年 授業者: 福崎 里美 大谷津明花(薄葉小) 和田 悦子 村上 大輝(野崎中)

めあて: 古典の文章がすらすら読めるようになる。早口言葉でウォーミングアップ



児童は熱心に取り組んでおり、授業に向かうための集中力が高まっていった。



「し、いわく、おのれのほっせざるところ、ひとにほどこすことなかれ、と」(教師)
読み方を熱心にメモする児童

友達同士で読み合う活動



ペアの活動後、教師がきちんと読めているか確認し、読めた児童にはシールを貼った。中には見ないで言えていた児童もいた。

この中の全部の漢字
実際にあるのかな？
ひらがなはどうか



児童は歴史的かな遣いについて感
覚的にとらえ読むことができていた。

何年たっても変わらないものは何だと思う？
「礼儀」「授業」「鉛筆」「鉛筆は変わるだろう」
「廊下を走らないこと」「教科書」「学校」(児)
もしかしたら10年後、20年後「パソコン
なんてふるーい」と言われる時代が来るかもし
れないよ？「確かに」(児)でもそんな中でも
変わらないもってというのが「言葉なんです」だ
から言葉って大事だし、言葉で表現したり、読
んだり書いたり、音読することは大切なんです

両クラスとも中学での内容をク
ロームブックで閲覧し、同じもの
が載っていることに感心してい
た。今後の見通しを持つことで古
典に関する意欲が高まった。また、
予測不可能な未来を生き抜くため
に必要な力、言語能力の大切さにつ
いて考えさせることで、言葉の
大切さを感じさせることができた